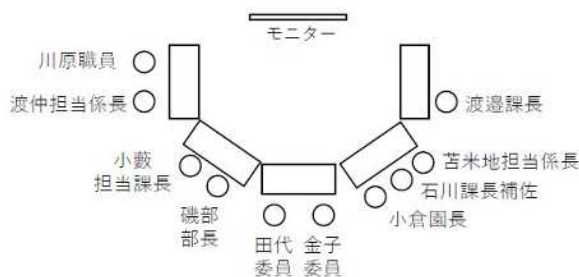


委員会議事録

令和7年度川崎市公園緑地等整備計画推進委員会 第1回夢見ヶ崎動物公園再整備検討部会			
日 時	令和7年7月15日(火) 13:30~14:40	場 所	夢見ヶ崎動物公園パークセンター及び オンライン形式
委員	金子 忠一様 藏田 幸三様 (オンライン) 田代 順孝様 村田 浩一様 (オンライン)	出席者	川崎市 建設緑政局 緑政部 ・磯部部長 ・みどり・多摩川事業推進課 (事務局) 小藪担当課長、渡仲担当係長、川原職員 ・みどりの保全整備課 渡邊課長 ・夢見ヶ崎動物公園 小倉園長、石川課長補佐、苔米地担当係長

座席順 (会場)



藏田委員(オンライン参加)

村田委員(オンライン参加)

13時30分 事前連絡・資料確認

事務局 : ただいまから「令和7年度 川崎市公園緑地等整備計画推進委員会 第1回夢見ヶ崎動物公園再整備検討部会」を開催する。本日の会議はオンライン会議を併用している。資料はお手元に配布した資料、オンライン会議による参加者の方はメールにて事前送付したファイルをご覧ください。画面に共有するのでご参照いただきたい。

13時31分~ 次第1 開会・緑政部長より挨拶

緑政部長 : 夢見ヶ崎動物公園の動物園は昨年度に50周年を迎え、51年目となる。近隣の子どもたちからお祝いのバースデーケーキのオブジェをいただくなど、市民に親しまれてきた動物公園である。施設の老朽化などもあり、再整備の取組を推進するため、昨年度策定した再整備計画骨子をもとに今年度は再整備計画の策定を目指す。今回、再整備計画の素案をお示しするので、皆様にご意見をいただきたい。また、今回の会場のパークセンターは先行整備で整備されたものであり、暑さや寒さをしのぐことができ、ワークショップの開催など市民の利用・活用の幅を広げているところである。

13時33分~委員紹介・会議の公開について

(事務局より委員の紹介)

事務局 : ここからの進行は委員会の会長である金子委員に進行をしていただく。

金子委員 : まず会議の公開について事務局より説明をする。

(事務局より会議の公開に関する説明)

金子委員：ただいまの説明のとおり、本会議は原則公開により審議を行う。事務局からの説明に対し、何かご意見はあるか。

(意見なし)

金子委員：ご意見がなければ、原則公開として進めてよろしいか。

(異議なし)

金子委員：それでは、会議を公開として進める。本日は傍聴希望者はいるか。

事務局：傍聴希望者は0名です。

金子委員：傍聴希望者はいないため議事をすすめる。

13時40分～ 次第2 議題

金子委員：次第にしたがって進める。次第2の(1)「夢見ヶ崎動物公園再整備計画(素案)」について、事務局で説明した後に、委員の皆様から御意見、御質問等をいただきたい。

事務局：

資料に基づき説明させていただく。昨年度策定した再整備計画骨子の構成も示しているが、素案はこの骨子に肉付けした内容となっている。骨子にも示している3. 課題と4. 再整備の方向性については一部省力し説明させていただく。本日ご出席の委員のご専門から、特に6. 再整備の基本的な考え方～7. 基本方針、11. 事業手法～12. 運営手法の箇所についてご教示いただきたい。

1 ページは平成30年度の基本計画、令和4年の再整備の基本的な考え方、令和6年度の再整備計画骨子を基に、本計画では公園の役割や地域拠点としての可能性を再考し、施設の配置、整備内容、運営方法を具体的に示すことを記載している。

2 ページは公園全体を対象区域とすること、検討の経緯などを示している。

3 ページは公園が3つのエリアで構成され、鳥獣保護区に指定されていること、寺社など民有地と隣接していること、生物多様性かわさき戦略での位置づけなどをまとめている。

4 ページは利用の実態として、来園者数、入園無料での運営、収支等を示している。また、昨年度のオープンハウス型説明会や本年度実施中のアンケート調査では、休憩施設、遊具、物販等について意見がある。

5 ページはこれまでの民間や地域との連携の取組について示しており、これを踏まえて今後の整備では機能を強化していく。

6 ページは公園の課題として、ニーズの変化と施設の老朽化に加え、サービス面として夢見の特長を活かした取組の充実、持続可能な管理運営体制の構築などについてまとめている。

7 ページは再整備の方向性として3つの視点を示している。

8 ページは前ページまでの内容を、都市公園機能、まちづくり機能、動物園機能の3つの機能の視点から再整備の必要性、今後担うべき役割、再整備のポイントなどをまとめている。

9 ページは再整備で目指すべき将来像と、それに向けた再整備における強化軸を設ける旨記載している。いのちを守る、いのちの体感、いのちへの共感などの取組から、「いのちを感じる」だけでなく、いのちを大切にする行動につなげることを目指す。

10 ページは再整備の基本的な考え方をまとめており、緑と人が出会う・人と人が出会う・人と生きものが出会う、の3つの基本方針を基に再整備の取組を進めていく。

11 ページは3つの基本方針に基づき、従前より進む市民の活用を意識した再整備により、五感をつかった取組を推進することを示している。

12 ページは「緑と人が出会う」取組の推進により、都市公園としての機能と魅力を向上し、ゆったりと過ごしながら自然環境に親しむ場の提供を目指す旨記載している。特に加瀬山の緑を守り・育てる取組の推進により、地域の自然環境に親しみ、緑への愛着と関心をはぐくむ場を目指す。

13 ページは夢見を100年後も継続するため、「人と人が出会う」取組の推進により、持続可能な管理運営と多様な主体との連携体制を構築し、地域のまちづくりに貢献する旨記載している。川崎市唯一の動物公園として、動物を介した取組など他にない取組を推進する。

14 ページは動物園機能の向上により、「人と生きものが出会う」取組の推進により、夢見全体でいのちを感じる場の充実を図る旨記載している。動物にさわるだけではなく、動物に配慮しながら動物の個性を生かした体験などを推進する。

15 ページはゾーニングについて示しており、現在のゾーニングを活かしながらいぎわいとやすらぎが共存するゾーニングを設定する。

16 ページは動線について、ジョギングなどの通過、散策とたまり場のバランスに配慮した園路とする旨記載している。

17 ページは植栽についての考え方を示す。既存木の巨木化が進んでいることから利用にあたって危険や支障を伴う樹木を更新することなど記載している。

18 ページから21 ページは施設配置の詳細となるため資料をご確認いただきたい。

22 ページは飼育動物の考え方について、繁殖の計画や動物種の習性などに配慮した施設整備を行う旨示している。

23 ページはコレクションプランについて示す。飼育環境の充実や、体験プログラムを可能とするために飼育動物の繁殖・調整を進め、将来的に35種程度を継続して飼育する方針とする。

24 ページは動物舎などの整備方針について示し、動物の飼育環境の改善や展示機能の充実、来園者と職員の安全確保などを考慮し、より動物園としての役割を果たすための施設整備を行う。

25 ページは段階的整備の方針について示しており、公園を全面的に閉鎖することは避けて整備を行う。インフラの整備が重要であるとして第1期での整備を検討している。

26 ページの概算事業費は現在調整中であるため今回は説明を控えさせていただく。

27 ページの事業手法について、民間による施設整備は意欲のある事業者が見つからないことから、地域経済の活性化に貢献できる従来方式による整備とする。

28 ページの運営手法について、これまでは飼育業務と両立しながらのプログラム開催が難しかったことから、今後は民間パートナーのノウハウを活用し、いのちを感じる体験プログラムなどを拡充していく。

29 ページは、民間ではメリットになりづらい獣医療などは引き続き市が直営で実施しながら、各種プログラムなど部分的に、丁寧な業務移行により民間への委託を目指す旨記載している。駐車場は周辺公共施設と連携のうえ、設置許可制度を活用し、民間との協働により有料化を進める方針とする。

30 ページは事業スケジュールを示している。来年度から基本設計に進み、施設の整備は段階的に実施する。

金子委員：事務局より資料についてポイントを絞って説明いただいた。それでは、委員の皆様からご意見、ご質問等をいただきたい。

田代委員：

- ・事前説明で資料をいただき確認した。流れが分かりやすく、細かく書かれており、よくできていると感じる。
- ・使われている言葉について、楽しさを感じる言葉ではあるが、事業やプログラムなどを進めるうえで理解しにくいと感じる。たとえば、「出会い」という言葉が使われている。これは分かりやすいが、行政計画の中で「出会い」を使うのは理解されにくいのではないかと感じる。言葉の使い方について、ご説明いただけるとありがたい。こういった言葉は、これから変更することは可能か。

金子委員：事務局から回答いただく。

事務局：出会いという言葉は骨子でも定めている言葉である。「出会う」を補足し説明する部分を再整備計画でしっかりと伝わるようにしていきたい。

田代委員：

- ・緑と人が出会う、とあるが、「親しむ」ことは、「出会う」からは繋がらないのでは、と感じる。言葉の順序、言い回しの問題だと思うが、「人が生きものに会う」となれば、ここに行けば生きものに会えるんだな、と分かる。
- ・5.の将来像について、「いのちを感じる」とあるが、いのちとは具体的に何か。哲学的、医学的など様々な意味を持つと思うが、どのような意味なのか、これも説明いただきたい。
- ・「いのちを感じる」の表現について、いのちは感じるものだろうか。また、何の「いのち」を感じるのか。いのちを大切にする構造とは、あなた自身のいのちなのか、動物のいのちなのか、多面的な捉えられ方をしかねないので危惧している。
- ・「いのち」がテーマとして進むことと思うので、一般の人にも伝わるように表現した方がよい。後から解説が必要とならないように、わかりやすい表現を考えてほしい。

金子委員：事務局から回答いただく。

事務局：ご指摘のとおり、概念的な部分を説明できるレベルにないと感じる。基本方針から方向性へのつながりについて明確にし、整理する。いのちを感じるという言葉については、夢見は動物を飼育していること、緑の多い場所であることなど、捉え方は様々であるため、庁内でも深く議論を進める。本事業の重要な、コアとなる部分であるため、丁寧に議論を深めていく。

金子委員：オンラインの方でご意見、ご質問等はあるか。

藏田委員：駐車場の有料化について、日吉合同庁舎との連携とあるが、こういった内容か。

金子委員：事務局から回答いただく。

事務局：夢見の駐車可能台数は現在 19 台である。近隣の日吉合同庁舎の駐車場は現在無料で運営されており、夢見と一体的に管理して有料化を図りたいと考えている。来園者からも駐車ができないから来園を躊躇するとの意見がある。

藏田委員：

- ・持続可能な維持管理、財源確保について、どう実現していくのか。そもそも入園無料であり、公園の価値を際立たせていくにも、行政だけの視点では新たな財源の確保は難しいと考える。民間ノウハウなどを活用していく視点が必要である。夢見の社会的価値は何なのかということを整理して、経済的な視点からさらなる価値化、収益化をしていく視点が必要である。
- ・どれくらいの収益をあげる想定なのか、現時点でお考えはあるか。

金子委員：事務局から回答いただく。

事務局：稼ぐことについてご指摘いただいた。現在は無料で運営しており、入園料はないが、稼ぐポテンシャルはあると考えている。クラウドファンディングでは 600 万円が集まったり、ふるさと納税での寄附も好調であったりと、潜在的に支援などの需要はある。今は稼ぐアクションはしていないが、持続可能な管理運営については財政からも指摘されているため、引き続き検討していく。

藏田委員：P-PFI や DB 方式は難しいとのことだが、駐車場なども含めもう少し民間の力を活用することを記載してほしい。例えば駐車場で稼げると想定しているのであれば、その収益を施設の管理費にあてるなどの記載がほしい。等々力緑地のコンセッションでも駐車場の項目が加わった。より積極的に駐車場の有効活用を推進する旨記載することで、民間の力を借りやすくなると考える。民間との連携については具体的に伝える方がよい。

金子委員：他にご意見、ご質問等はあるか。

田代委員：事業スケジュールについて伺いたい。民間パートナーとの協働と書いてあるが、すでに協働ありきで検討が進んでおり、協働が始まるということか。事業スケジュール全体が大きなフレームで書かれており、整備と協働がどう繋がるのかが分かりづらい。民間といきなり協働を始めたいという風に感じられるが、全体の事業の流れがあつての民間との協働なら分かる。施設の設計も進むようだが、施設の設置と民間との協働内容の結びつきが明確に浮かび上がってこない。説明が抽象的であるように思う。最終的な公園の整備、仕上がりのイメージは民間パートナーに伝わっているのか。

金子委員：事務局から回答いただく。

事務局：民間パートナーの記載については、令和 9 年に駐車場の民営化は可能と考えているが、それ以降の協働については具体的に決まっていない。現在の事業費や、老朽化した施設のままだと参入が

難しいとの意見もいただいている。獣舎の整備や休憩施設の整備など公園を整えたいうえで民間が参入しやすい環境を作りたい。その後具体的に民間パートナーが必要とする設備などをヒアリングしていきたいと考えている。

田代委員：質問だが、基本計画を踏まえたうえで、この再整備計画も今後も更新されるということか。更新されていくのであれば、そのチェックは都度必要となる。

事務局：本日いただいた意見も踏まえて、再整備計画もまとめていく。

田代委員：承知した。イメージが沸いた。今日のポイントなども反映されていくということか。

事務局：専門家の意見をいただきながら策定する予定である。

金子委員：村田委員から何かご意見、ご質問等あるか。

村田委員：

- ・よくまとまっている計画と感じる。ただ、この計画は現状と過去をみた計画であり、これからの10年、50年先をどうするか、どんな動物公園とするかが重要である。
- ・もっと斬新な、既存の緑を活かした、ここでしかできない仕組みが必要ではないか。今後より一層重要となってくる生物多様性や環境保全など、これまでの動物園の概念を超えた計画を作っていただきたい。

金子委員：事務局から回答いただく。

事務局：市としてもベーシックな計画となっていると感じる。この事業により、夢見に来て、夢見を選んでいただけるような場所としたい。生物多様性についても、民間の企業も関りたいとの声をいただいているため、ブラッシュアップしていきたい。

金子委員：

- ・私の方からもいくつかお伝えしたい。今回この会議で初めて来園したが、動物園としてどの動物種がどれくらいいるのかは計画に整理するべきと思う。
- ・動物を含め様々な夢見のもつ資源から、今後どんなサービスが提供できるかを積み上げていくことが必要である。
- ・11～12ページの考え方については、「五感」というキーワードを利用しているが、「味わう」というのが分かりづらい。「体感」としたら分かりやすいか。
- ・動物飼育などの特色もありながら、地域のコミュニティに近い公園とのことだった。環境教育的な、公園で何かに気づき、理解し、考える、といった視点を大事にしてほしい。加瀬山の生きもの、植物などを含めた夢見の様々な特色で、多方面のサービスが提供でき、様々なアイディアにつながると思う。

- ・人材育成については、将来を考えたときに、専門的な知識をもって対応していくことを民間に依頼してよいのかと感じる。昔であれば外郭団体などが請け負っていたのではないかな。そういった専門的な人材育成をしていくことは意識したほうがよいと感じる。
- ・財政についてはクラウドファンディングなどが好調とのことだが、集中的に投資をすることと、ゆっくりと投資をしていくことを分けて考えてはどうか。
- ・計画は10年であるが、サービスの面をしっかりと考えてほしい。10年間でどんなサービスができていくかも含めて伝えてほしい。施設の整備が先行していくのではなく、市民サービスがどうなるかをしっかりと伝えるべきと思う。

金子委員：事務局から回答いただく。

事務局：行政計画として捉えているが故に、施設整備など行政の視点が強いところは反省点である。夢見を今後どうしていくか、どういう取組をしていくか、また、どういう仕組みで実現するか、これらを明確にすることが大切であると感じている。老朽化している施設もあるため、施設整備ありきで検討がスタートしている。市民へのサービスの面もしっかりと検討し、今回いただいた意見をもとにブラッシュアップして計画を再度ご提示したい。

金子委員：ここまで一通りご意見、ご質問等いただいた。他にあるか。

田代委員：一点、大事だと感じていることをお伝えしたい。ここは「動物公園」である。上野や多摩も動物公園であるが、動物公園と名乗ることは少ないのではないかな。大変ユニークであるため、しっかりと動物公園であることをアピールしてほしい。上野も周辺に森があつて、動物園があつて、ゾーニングがひとつのかたまりとして存在している。夢見と聞いて、イメージがすぐに浮かぶような、図としてイメージが浮かぶようなものがあればよいと感じる。

金子委員：事務局から回答いただく。

事務局：夢見と名前を聞いて、こんな場所であるとイメージしてもらえるような計画、整備とする。

金子委員：他にご意見、ご質問等はあるか。

藏田委員：PPPの視点から、事業スケジュールの10年間の間に民間に関する資料が少ないと感じる。行政だけで運営していくことが難しいのであれば、民間から投資していただくしかない。そのためには本当の意味で夢見を維持していく意味をイメージできるよう、明確にしていかないと民間も加わりにくいのではないかな。どういう動物公園として、そのユニークさをどう活かして、川崎市の売りとしていくのか。

都度行政の手続きで整備を進めていくにしても、どこかで民間の投資を得られるような仕組みについて検討してほしい。

金子委員：村田委員から他にご意見、ご質問等はあるか。

村田委員：

- ・（オンラインで聞き取りづらいところがあった）
- ・経済面は外部からの支援を入れて取り組めば上手くいくと考える。夢見の特色は緑があることであり、地球の環境保全に役立ち、川崎市民が生き残るためにも緑は大切な要素である。残された自然を活かした計画として検討を進めてほしい。

金子委員：今回、動物園の担当者も出席している。この機会に委員に質問などあれば伺う。

夢見：夢見の貴重な緑をどう生かすかじっくり検討したいと考えている。そのうえで、動物園として向かっていく方向について、何かアドバイスがあれば村田委員にご意見いただきたい。

村田委員：この再整備計画においてもそうだが、大人の世代ではなくて、若い、次の世代がどう考えるか、どんな意見であるかが重要である。大人が次の世代に夢見をつないでいかなければならない。若い世代の意見、わくわくするような意見を取り入れてはどうか。

金子委員：他にご意見、ご質問等はあるか。

田代委員：質問だが、やはりここは「動物園」として考えるべきなのか。民間との協働も検討するが、最終的には従来通りの直営とする想定なのか。

事務局：今後しっかりと整理するが、市としては「動物公園」と考えている。整備に関しては民の資金を入れて行うのは難しいと考えている。運営に関しては、飼育やプログラムなど、一部で民間との協働は可能と意見もいただいているので、可能性はあると考えている。

金子委員：地域と、市民と一緒につくりあげるという視点がもっとあってもよい。

金子委員：他にご意見、ご質問等はあるか。

（意見・質問なし）

金子委員：本日は様々なご意見をいただいた。今後計画はさらにバージョンアップしていくことと思う。本日の議題は以上となる。それでは、事務局に進行をお返しする。

14時37分 閉会・緑政部長より挨拶

緑政部長：緑に囲まれた動物公園であるという、広く環境の視点も持って、どのような動物公園にするのかということを示していきたい。また、民間との協働範囲や、収益を見込める取組の可能性など、改めて検討し、民間が参入できる場合の範囲やサービス提供のイメージなど示していく。

本日いただいた意見を踏まえ「夢見ヶ崎動物公園再整備計画」について、引き続き皆様のご尽力を承

り、検討していくため、ご協力をお願いしたい。

事務局　：それでは、以上で「令和7年度 川崎市公園緑地等整備計画推進委員会 第1回夢見ヶ崎動物公園再整備検討部会」を終了する。

14時40分　終了

以上